

学校関係者評価評価 報告書

令和6年度

令和 7年 6月

学校法人 **五犬**



横浜テクノオート専門学校

1. 学校の教育目標

「夢を持って社会人に」、「チャレンジ精神」というスローガンに基づき、実践的な技術や基礎知識の習得だけでなく、挨拶や礼儀作法など人間性の向上を重視した教育を進めている。

教育目標としては、「国家試験合格率100%」「就職率100%」「退学者0」を掲げている。このためには学生が自ら主体性を持って勉学に勤しむ環境づくりが欠かせないものであるとともに、企業・関連団体のご協力を得ながら進めていくことも重要である。

企業で必要とされる人材像を的確に把握し、教育カリキュラムに反映させていく。また教職員の資質向上のために、企業様のご協力のもと研修を実施する。

こうした、教育の質向上に対する取り組みについて保護者の方々にもご理解を深めて頂く。

最終的には企業に優秀な人材を送り、日本の自動車産業の発展に貢献することが弊校の教育目標である。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 学生教育の方針を再確認・再出発
- 2) 職員間の信頼と協力について全員が再確認・再出発
- 3) 新整備士制度への取り組み再確認
- 4) 2024在籍確保と2025入学生確保を再確認・再構築

3. 評価項目の達成及び取組状況

4:適切

3:ほぼ適切

2:やや不適切

1:不適切

NA:該当せず

I 自己点検評価項目

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
・ 理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
・ 学校における職業教育の特色は何か	4
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・ 理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知 されているか	4
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向付けられているか	4

① 評価の根拠

- ・ 校訓「チャレンジ精神」は校内の各教室等に掲示されており、職員・学生問わず浸透している。
- ・ 自動車整備士という職業の、社会における重要性を認識し、学生はもちろん、オープンキャンパス等の機会に高校生や保護者に伝えている。

② 今後の改善方策

- ・ 企業様との結びつきの強さを入さらに学希望者や保護者に伝えていく。
- ・ 企業との連携カリキュラムを増やしていく。

③ 学校関係者評価委員より

掲示物や普段の授業中、ホームルーム等によく展開されていると言える。

(2) 学校運営

評価項目	評価
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
・ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
・ 人事、給与に関する制度は整備されているか	4
・ 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 評価の根拠

- ・ 教職員全員が出席する全体会議において、決められた年度方針に基づいて運営されている。
- ・ 社内LAN環境があり、グループウェアを用いて職員間の情報共有をしている。

② 今後の改善方策

- ・ 給与に関する制度は多様な業界の傾向を踏まえて引き続き検討すべきである。
- ・ 新規システムの導入でさらなる業務の効率化を図れる可能性があるため検討すべきである。

③ 学校関係者評価委員より

目的に沿った運営について特に問題ないとする

(3) 教育活動 ① 1級自動車整備科

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
・資格取得の指導体制はカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員(本務・兼務含め)を確保しているか	2
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	2
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・国交省指定の一種養成施設の基準を上回る十分な授業時間数を確保している。
- ・シラバスに基づき資格取得についても体系的に取り組んでいる。
- ・職員の資質向上のための研修等について、順番に受講している。
- ・職員の離職があり人員の欠員補充を行っているが充足していない。

② 今後の改善方策

- ・企業との連携をさらに深め、講師派遣等の依頼数を増やしていく。

③ 学校関係者評価委員より

資格試験の対策などをしっかりと行い、実績を残したと言える。

(3) 教育活動 ② 自動車整備科

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
・資格取得の指導体制はカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員(本務・兼務含め)を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・国交省指定の一種養成施設の基準を上回る十分な授業時間数を確保している。
- ・明確な成績評価基準のもとで評価を行っている。
- ・職員の離職があり人員の欠員補充を行っている。

② 今後の改善方策

- ・関連団体や企業様にご協力いただき講師の派遣や教員の資質向上の研修などを実施していく。

③ 学校関係者評価委員より

カリキュラムは体系的に組まれており、資格合格、就職などよい結果を残している。

(3) 教育活動 ③ ボディ・エンジニア科

評価項目	評価
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・ 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・ 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
・ 資格取得の指導体制はカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
・ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員(本務・兼務含め)を確保しているか	2
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	2

① 評価の根拠

- ・ 関連団体の総会や、企業訪問等から情報収集を積極的に実施している。
- ・ 国家資格の特定化学物質講習、有機溶剤作業主任者講習を受講し資格を取得させている。

② 今後の改善方策

- ・ 企業や関連団体との連携をさらに強化し、新たな技術情報収集や、現場を学生に見学させていただけるような授業を展開する。
- ・ 経験のある教員の採用について強化していく。

③ 学校関係者評価委員より

業界(日車協連、神車協等)との連携、企業(塗料会社等)との関係もよい。

(3) 教育活動 **④ 国際エンジニア科**

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	2
・授業評価の実施・評価体制はあるか	3
・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
・資格取得の指導体制はカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員(本務・兼務含め)を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・自動車整備の教科書に準じたオリジナルのテキストも作成し、教育内容は充実していると言える。

② 今後の改善方策

- ・企業の採用担当者からの情報収集をより積極的に行う。

③ 学校関係者評価委員より

留学生だけの3年制課程の学校が多い中、独自の教育手法を採用しており他校からも注目されている。

(4) 学修成果

① 1級自動車整備科

評価項目	評価
・ 就職率の向上が図られているか	4
・ 資格取得率の向上が図られているか	3
・ 退学率の低減が図られているか	4
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 評価の根拠

- ・ 個別の面談頻度を高めることで退学者を1名も出すことなく終えることができた。
- ・ 国家試験については筆記試験において不合格者が出ってしまった。
- ・ 卒業生が就労している企業を訪問し、本人から現状のヒアリングを行っている。
また拠点長と面談し情報を得ている。

② 今後の改善方策

- ・ 企業訪問で得た卒業生の情報や企業の情報を、データとして残し共有できるようにする。

③ 学校関係者評価委員より

試験結果は残念であったが、また次年度に向かって改善をしてほしい。

(4) 学修成果

② 自動車整備科

評価項目	評価
・ 就職率の向上が図られているか	4
・ 資格取得率の向上が図られているか	4
・ 退学率の低減が図られているか	3
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 評価の根拠

- ・ 学習意欲の低下による退学者が多く出てしまった。
- ・ 卒業生訪問を実施することで状況の把握、早期離職の抑止に繋がった。

② 今後の改善方策

- ・ 卒業生訪問によって得られた各種の情報をデータによって共有し、在校生への指導に活用していく。

活用していく。

③ 学校関係者評価委員より

合格率を維持できなかったことは真摯に受け止めて次年度に向けた対策を実施されたい。

(4) 学修成果

③ ボディ・エンジニア科

評価項目	評価
・ 就職率の向上が図られているか	4
・ 資格取得率の向上が図られているか	4
・ 退学率の低減が図られているか	4
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 評価の根拠

- ・ 国家資格の取得はしないものの、有機溶剤取扱者資格、および特定化学物質取扱者の取得に向け学生に指導を行い、高い合格率を示すことができた。(全員合格)
- ・ 担当者による企業訪問で卒業生の状況把握はできている。

② 今後の改善方策

- ・ 新技術を含めた業界のニーズを把握し、カリキュラムの構築、改善に反映させる。

③ 学校関係者評価委員より

基礎的な技術習得をしっかりと行い、さらに学生の達成感が得られるようカスタム塗装なども採り入れ、学習成果発表の場としてイベントに出展するなど大きな改善がなされたと思われる。継続してほしい。

(4) 学修成果

④ 国際エンジニア科

評価項目	評価
・ 就職率の向上が図られているか	4
・ 資格取得率の向上が図られているか	3
・ 退学率の低減が図られているか	4
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 評価の根拠

- ・ 自動車整備科に進学後、就職活動の準備に手間取る者が見られた。
- ・ 留学生の卒業後の活躍については担当者が訪問した際に情報を得ており、在校生にも伝えることでモチベーション向上に繋げている。

② 今後の改善方策

- ・ 履歴書の作成もカリキュラムの一環として採用する

③ 学校関係者評価委員より

- ・ 近年、他校でも本校と同じ1年＋2年の課程を新規で設置する学校が増えてきた。
ライバルが増えることになるがやりかたが評価された証でもある。

(5) 学生支援

① 1級自動車整備科

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・経済的に厳しい環境の学生に対しては、学納金を月ごとに分納にしたり、納入の猶予を設けることで対処している。
- ・国家資格取得の養成機関のため、社会人向けの短期講座は設けにくい。
- ・学生募集活動を伴わない、高校生を対象にした職業体験の場を提供している(神奈川県専修学校各種学校協会主催「仕事の学び場」への参画)

② 今後の改善方策

- ・高等学校での授業の一環として進路研究講演等、積極的に協力する。

③ 学校関係者評価委員より

卒業生が定期的に顔を出していると聞く。卒業生の活躍が聞ける場であり、またガス抜きの場合としても有効である。また業界の動向を把握するのにも役立っている。

(5) 学生支援

② 自動車整備科

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 評価の根拠

- ・入学して1か月の時期に保護者面談を実施しているため、その後も保護者からの相談を受けやすい環境づくりはできている。
- ・新入生の研修を復活させ、学生間・職員とのコミュニケーション醸成に役立った。
企業に依頼してのセミナーも実施され、一定の効果が表れている。

② 今後の改善方策

- ・卒業生訪問により得た現場の生の声を在校生への情報提供と指導に繋げる。

③ 学校関係者評価委員より

保護者面談を通じて家庭への情報提供や協力の呼びかけができている。

(5) 学生支援

③ ボディ・エンジニア科

評価項目	評価
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4
・ 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4
・ 保護者と適切に連携しているか	4
・ 卒業生への支援体制はあるか	4
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
・ 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・ 自動車整備科在籍時から钣金塗装のイメージが湧くよう自動車整備科授業に钣金塗装の授業を取り込んだことで将来の仕事に関して実感を持って考えられるようになった。
- ・ 独自の学費支援制度はあるが、経済的な事情を考慮したものではない。

② 今後の改善方策

- ・ 卒業生の活躍を整備科在籍時から進学予定者に伝え、進路に対する意識をしっかりと持たせるようにする。
- ・ 学生と個人面談する機会をもっと頻繁に設ける。

③ 学校関係者評価委員より

上級課程の学生であるため日常の学校生活については慣れているようだ。

基本的な生活習慣はできている学生の割合が多いと聞く。

(5) 学生支援

④ 国際エンジニア科

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	4
・保護者と適切に連携しているか	NA
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 評価の根拠

- ・留学生には学費の割引が当初より設定されているため経済的側面に支援しているといえる。
- ・卒業生が就労している企業を訪問し現況を把握。在校生にその活躍を伝えることでモチベーション向上に繋げている。

② 今後の改善方策

- ・企業の外国人採用に対する考え方を知る機会、学生の実際の姿を見ていただく機会を設け、YTCの留学生を採用したいと考えていただけるような企画を立案する。

③ 学校関係者評価委員より

本年度は昨年度と比較して人数が3倍にもなったが、しっかり個別のケアができていたと思われる。

(6) 教育環境

評価項目	評価
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
・ 防災に対する体制は整備されているか	4

① 評価の根拠

- ・ 実習場の広さ、教具教材の数量とも、国交省基準を上回る程度で整備されている。
- ・ 自動車整備科/1級自動車整備科1年次のインターンシップでは、受け入れ企業に就職を希望する者の割合が高く、企業様からも好評である。
- ・ 災害時用に食料、飲料を備蓄している。防災訓練も実施している。

② 今後の改善方策

- ・ 施設設備、教材の鮮度管理を引き続き徹底する。

③ 学校関係者評価委員より

教材については先生方でしっかり検討したうえで選定したことがうかがえる。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
・ 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4

① 評価の根拠

- ・ 高等学校訪問時に、自動車整備士の実態、国家資格の有用性、就職に関することなど真実を告知している。
- ・ オープンキャンパスの機会に、志望者やその保護者に対し自動車整備士の仕事内容や待遇、今後の展望までしっかり伝え、ミスマッチを防止している。
- ・ 学校案内資料・ホームページ等に、就職先や資格合格率などを明記しており、情報開示に努めている。
- ・ 学納金について、同分野他校・他分野校と比較しても妥当な設定となっている。

② 今後の改善方策

- ・ 自動車整備士という職業の必要性や社会的な地位の向上等を業界全体で訴えていく
- ・ 神奈川県内の公立高等学校はアポイントなしで訪問してもお会いできないため適時の情報提供がしづらい傾向がある。非効率ではあるが適切な時期にアポイントを取りつつ訪問を行う。

③ 学校関係者評価委員より

学生募集にはかなり苦勞していると聞く。自校の魅力を再確認して定員獲得に努めてほしい。

(8) 財務

評価項目	評価
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 評価の根拠

- ・ 神奈川県に対し前年度分の決算、会計監査報告を定期的に行っている。
- ・ 財務諸表を学校ホームページ上で公開している。

② 今後の改善方策

- ・ 部署により予算、実績に際が出てしまったため月次の管理をさらに徹底する。

③ 学校関係者評価委員より

しっかりと情報公開されていると考える。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
・ 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
・ 自己評価結果を公開しているか	4

① 評価の根拠

- ・ 文部科学省、国土交通省、神奈川県それぞれの基準をクリアしている。
- ・ 自己点検評価ガイドラインに加え、「全国自動車大学校・整備専門学校協会」が作成した第三者評価項目に基づき評価を行っている。

② 今後の改善方策

- ・ 改正個人情報保護法に照らし、セキュリティ対策に注力する。

③ 学校関係者評価委員より

評価結果の公表等、問題ないと考える。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・ 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・ 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	2
・ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 評価の根拠

- ・ 地域の小中学生を対象に「チャレンジスクール」と称する仕事の体験をするイベントを年に2回定期開催している。(主催 神奈川県専修学校各種学校協会)
- ・ 活動の種類に応じ、ボランティアに参加する日数の一部、または全部を公認欠席とする制度がある。

② 今後の改善方策

- ・ 学校の設備や教材を活かし、業界団体や企業様の研修の受け入れをさらに増やし、社会貢献とともに業界との結びつきを強化する。

③ 学校関係者評価委員より

国家試験カリキュラムであることから、外部への施設設備貸出しや研修機会の提供などは制限があるが、可能な範囲で実施していると捉えている。

(11) 国際交流

評価項目	評価
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
・ 受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・ 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
・ 学内で適切な体制が整備されているか	3

① 評価の根拠

- ・ 入学希望者の、将来ビジョンまでを話し合い、しっかりと納得したうえで出願をするよう複数回の来校を促している。
- ・ 学校の近隣に留学生向けの寮を完備しており、生活環境も含めて指導管理している。

② 今後の改善方策

- ・ 政府の方針等に影響を受けるものであるため、諸外国の情報を収集し、情勢を調査分析する必要がある。

③ 学校関係者評価委員より

文化や習慣の異なる人々を指導監督することはかなり負担の大きな業務と聞いている。
入国管理局でも「適正校1」と認定されており実績がある。

Ⅱ 職業実践専門課程認定要件適合評価

評価項目	評価
・ 教育課程編成委員会の委員構成、開催回数、教育課程の編成内容	4
・ 企業等と連携した実習・演習等の実施	4
・ 企業等と連携した組織的な教員研修の実施	4
・ 企業等と連携した学校関係者評価の実施・公表	4
・ ホームページにおける情報提供	4

① 評価の根拠

- ・ 引き続き8社2団体から委員にご就任いただいている。
- ・ 委員所属企業様のご協力のもと、技術講習会等を開催いただき、教員・学生とも受講している。
- ・ 評価報告書を学校ホームページに掲載し情報公開している。

② 今後の改善方策

- ・ 通常授業の一部を講師委託するなど、連携度合いをさらに深め、より企業から望まれる人材育成に挑戦する。

③ 学校関係者評価委員より

今後もう一段、企業連携を深める必要性を感じる。

Ⅲ 国土交通省自動車整備士一種養成施設基準に基づく評価

評価項目	評価
・ 道路運送車両法 第1条に基づき自動車整備士の養成を目的としているか	4

① 評価の根拠

- ・ 一種養成施設の基準どおり課程を設置しており、関東運輸局 神奈川運輸支局への定期報告を実施している。(教材の改廃、施設の変更、国家資格の合格率 等)
また支局の立ち入り検査も受けており、大きな指摘事項もない。

② 今後の改善方策

- ・ 今後も基準を逸脱しないよう適切な管理を続ける。

③ 学校関係者評価委員より

なし

Ⅲ－(2) 学校運営

評価項目	評価
・ 1. 養成施設の沿革及び学校の組織図	4
・ 2. 学則又は規則及び細則	4
・ (3) 課程の名称	4
・ (4) 定員	4
・ (5) 修行の年限又は入学時期及び卒業時期	4
・ (6) 入学資格	4
・ (7) 休日及び休業	4
・ (8) 始業、終業時間及び1教育単位時間	4
・ (9) 当該改訂修了の教育時間	4
・ (10) 成績判定基準(出席日数及び合格点等)	4

① 評価の根拠

- ・ すべて国交省の自動車整備士一種養成施設の設置基準に基づいた運営をしている。

② 今後の改善方策

- ・ 自動車整備士の社会的地位向上や待遇改善にも注力する。

③ 学校関係者評価委員より

なし

Ⅲ－(3) 教育活動

評価項目	評価
・ 6. 教育科目別時間配分表	4
・ I-2-2 教育計画(二級)	4
・ I-2-2 教育計画(一級)	4
・ 7. 教育計画表	4
・ 2. 学則又は規則及び細則	4
・ (9) 当該課程修了の教育時間	4
・ (10) 成績判定基準(出席日数及び合格点等)	4
・ 4. 教育を行う者(指導員)の一覧表	4
・ 5. 教育を行う者(指導員)の名簿	4

① 評価の根拠

- ・ 神奈川陸運支局に「授業計画」を提出している。
- ・ 同「指導員名簿」を指定書式で備えている。
- ・ 在学生や保護者に対して、月次の教育計画が閲覧できる体制になっている。

② 今後の改善方策

③ 学校関係者評価委員より

なし

Ⅲ―(4) 学修成果

評価項目	評価
・ 養成施設の報告書	4

① 評価の根拠

- ・ 神奈川運輸支局へ定期的に報告を行っている。

② 今後の改善方策

③ 学校関係者評価委員より

なし

Ⅲ―(6) 教育環境

評価項目	評価
・ 必要設備等一覧表	4

① 評価の根拠

- ・ 神奈川運輸支局へ定期的に報告を行っている。

② 今後の改善方策

③ 学校関係者評価委員より

なし

Ⅲ―(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
・ 道路運送車両法の一 種養成施設設置基準に基づく学校運営を行っているか (実績報告、変更届等の提出等を含む)	4

① 評価の根拠

- ・ 神奈川運輸支局に定期的に報告を行っている。
- ・ 一 種養成施設設置基準を全教職員が閲覧できるようになっている。

② 今後の改善方策

③ 学校関係者評価委員より

なし

IV 自動車整備士分野の教育の質保証・特徴化に向けた 取り組み内容の評価

(3) 教育活動

評価項目	評価
・ 教員の専門性向上、教育力向上に向けた特徴ある取り組みや成果	4
・ 教育の質保証、質向上に向けた教育内容やシステムにおける特徴ある 取り組みや成果	4

① 評価の根拠

- ・ 企業や自動車関連団体、JAMCA、専門学校協会、キャリア教育財団等が主催する各種研修が再開されたため積極的に参加した。

② 今後の改善方策

- ・ 令和6年度はさらに積極的に各種講座の受講を行う。

③ 学校関係者評価委員より

なし

IV―(4) 学修成果

評価項目	評価
・ 国家資格の合格に向けた特徴ある取り組みや成果	4
・ 就職率、就職の質向上に向けた特徴ある取り組みや成果	4

① 評価の根拠

- ・ 放課後に少人数でのクラス分けを行って担当教員を配置するなどレベル別の対策授業を実施している。
- ・ 就職指導担当者と担任が同席して進路面談を行い、本人の希望と適性をバランスさせた斡旋を行っている。
- ・ 企業様を招いての説明会に、本校卒業生による講話や車両の見取りなどを採り入れ学生に広範な情報提供を行っている。

② 今後の改善方策

- ・ 国家資格について、全国平均と比較して高い合格率を維持できているが、完全に達成はできていない。さらに学生個々の状況を把握するよう努める。

③ 学校関係者評価委員より

なし

IV—0 全般

評価項目	評価
・ 其他学校としての特筆すべき特徴ある取り組みや成果	3

① 評価の根拠

- ・ 直接自動車整備に関わらない仕事など、「自動車整備士資格」を所持していれば就ける仕事は多く、多様化する学生の進路希望に対し情報提供をしている。

② 今後の改善方策

- ・ 企業との連携授業を採り入れるなど新たな試みを取り入れていく。

③ 学校関係者評価委員より

なし

4, 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1) 学生教育の方針を再確認・再出発

■学生の特性を重んじた教育

- ・多様な学生に対応するため柔軟な指導を心掛けた。しかしながら基礎学力の不足から学習についていけず意欲が低下してしまった学生が複数存在した。各家庭とも連携して面談等を重ねたが退学者を減少させるには至らなかった。
- ・国家資格についても前年は2級(G・D)、1級とも100%合格だったが、令和6年度は残念ながらともに不合格者が出てしまった。

2) 職員間の信頼と協力について全員が再確認・再出発

■研修参加によるスキルアップ

- ・TCE財団、専修学校協会、JAMCA、各企業等で開催される各種研修に積極参加することで自動車に関する新たな技術に関する知識を広げるとともに、教育手法やクラス運営、学校経営についての研修も受講し学生対応力を高めた。

3) 新整備士制度への取り組み再確認

■新整備士資格制度移行

- ・国交省や整備振興会、JAMCAなどの会合等で情報収集を行った。
- ・新カリキュラムの策定を行い、神奈川県私学振興課に学則変更の届出を行った。

4) 2024在籍確保と2025入学生確保を再確認・再構築

■TECHNOの強みを活かした広報

- ・特徴をしっかりと説明し、入学生確保に努めたが定員充足には至らなかった。
- ・学生の個人別指導を細かく行ったが、合計9名の退学者を出してしまった。

○ 国家試験合格率	自動車整備科	2級ガソリン	95.38%	(62/65)
		2級ジーゼル	90.77%	(59/65)
	1級自動車整備科	1級学科	85.00%	(17/20)
		1級口述	100.00%	(17/17)
○ 就職内定率	全科（国際エンジニア科は進学前提のため除く）			100%
○ 中途退学率	自動車整備科	6.97%	(129 ⇒ 120	9名)
	1級自動車整備科	0.00%	(70 ⇒ 70	0名)
	ボディ・エンジニア科	0.00%	(8 ⇒ 8	0名)
	国際エンジニア科	0.00%	(23 ⇒ 23	0名)